

8. 世界標準のアーティストYOSHIKI その凄まじい力

思えば、マディソン・スクエア・ガーデン公演とその直前の横浜アリーナ公演を観てから、5年という長い月日が流れた。

「すべての始まり」の執筆から5年後、再び『Xという物語』について僕が文章を書き始めてから、さらにまた、5年が過ぎたわけだ。

「すべての始まり」を出版してから5年間は、Xについてまったく文章を書かなかった。

けれど、2014年から突然『Xという物語』について書き始め、それから小冊子にして1000ページ以上というたくさんの文章を書き続けているのは、2014年以来、Xの活動が、僕個人にとって大変リアルだからだ。

たとえば僕が30年ほど前にXのプロデュースを手がけていて、その頃の記憶がたくさんあるからといっても、僕が書いているのが回顧録だったら、1000ページもの文章を書き続けることは難しいだろうし、そもそも書く気力は生まれません。

では、僕がなぜ1000ページもの文章を書き続けているのか。

それは、僕自身が今の世の中、エンターテインメント、そして音楽シーンや音楽業界について感じ、こうあるべきだ、と考えていることに対して、Xの活動、とりわけその中でもYOSHIKIのやり続けていることが全て、ぼくにとっては最も納得のいく「アーティストとしてあるべき姿」だからなのだ。

また、それに加えてYOSHIKI自身がずっと進化し続けている、という事実も文章を書くエネルギーの源となっている。

日本人で初めて、YOSHIKI自身が本当の意味で世界標準のアーティストとして活動し、Xの世界進出を確固たるものにしようとしているのだから、僕が注視し続けているこの5年間でYOSHIKIが進化し続けるのは当然のことだと思う。

何しろ、その道のりは険しく、茨の道だ。

そして日々、常に自分との闘いがある。

さらに、常に飛び込んでくるコラボレーションや膨大な要望、ファンの期待などに応えることから、メンバー間の調整やビジネス上の現実的な解決まで、ありとあらゆることに対応しながら、それでもその中のひとつがきっかけとなって、新しい未来が生まれる可能性もあるのだから、何ひとつとしておろそかにはできない。

その上で、数少ないアジア人の世界標準アーティストとして、リーダーを務めるバンドの世界進出を成功させる、という夢を叶えるために、世界的なビッグアーティストの成功を支える目に見えない法則をベストマッチングさせるべく協力する、世界トップクラスのエージェントと会話を重ねながら、たとえ世界の舞台であっても見失うことのない「自分らしさ」と「オリジナリティ」をきちんと軸にして、独自の視点と方針によって自らの道を創り出し、前進していく。

このような生きかたをしていて、日々進化しないわけではない。

そしてその進化する日々には「リアル」しかない。

すべてが現実には起きていることであり、YOSHIKIを見つめている人は、起きていることを常にリアルタイムで感じていくことになる。

だから僕は、YOSHIKIの進化を見つめながら、さらにその先を想像し、期待と夢を抱きながら、自分自身の熱い想いと希望を確認し、勇気をもらい、日々を過ごす。

そこで見えたきたものの一部を文章にしようとした時、懐かしい記憶が蘇り、また新しい発見をする。

そうして、まるで生きもののように常に形を変えながら、でも30年以上全く変わらない普遍性も持ち合わせる一つの不思議な物語を意識して、僕はひとつひとつ、文章を紡いでいくのだ。

その文章を書かせているものは、今日もどこかで同じ時間を生きながら、新たな未来を創り続けている、「リアルなYOSHIKIの生きざま」なのだと思う。